

# おおぜししまい 大瀬の獅子舞

平成3年3月15日 埼玉県指定民俗文化財（無形民俗文化財）

●八潮市大字大瀬 1501 番地（大瀬氷川神社）

大瀬の獅子舞は7月第1土曜日とその翌日、大瀬の浅間・氷川神社の祭礼に奉納される。初日は境内社の浅間神社の祭り、2日目は氷川神社の祭りとされている。また、7月の第4日曜日に各氏子宅をまわる祈禱獅子がおこなわれる。大瀬の獅子舞の日には、よく雨が降ることから「どろんこ獅子」とも呼ばれる。

獅子舞の始まりは、寛文2年（1662）に森川下総守が大瀬村の領主になった頃、獅子頭を領主より拝領してからと伝えられ、三百数十年の歴史をもつ。獅子舞は江戸時代に盛んであった富士浅間信仰（富士講）と深く結びつき、舞の形態も、3匹の親子獅子が富士山に登る途中のできごとを、物語風に描いている。

大獅子は兄獅子で顔が青く、眉が金色で目をむきだし、精悍な面魂をしている。中獅子は弟獅子で顔が黒

く、眉が金色で目は黒く、歯は銀色で幾分口は開けぎみである。ともに、鼻の両側には白髭をたくわえ、頭には1尺2、3寸（約40センチ）ほどの角が生える。女獅子は角がなく、顔は金色で、大獅子、中獅子と比べて優しい顔つきである。

舞の構成は、序の舞、本舞、結びの舞に分けられており、12掛りある。笛は囃子笛を用いて17曲目ある。とりわけ、本舞の豪壮で情緒豊かな哀調をこめた笛の音は、見学者を魅了する。



## ◎公開日

祭 礼：7月第1土曜日とその翌日  
10時ごろ～20時ごろ

祈禱獅子：7月第4日曜日  
7時ごろ～20時ごろ

## ◎交通案内

- ・八潮駅南口から徒歩16分
- ・八潮駅南口からバス（松戸駅または金町駅南口行）  
「潮止橋南」下車すぐ



本図は電子地形図25000（国土地理院）を加工して作成したものです。